

ーコロナの終息を願うー

揺れる伝統行事



「無病息災」「豊作祈願」私たちの祈りを捧げる伝統行事が、コロナ禍に揺れています。年始に急拡大し、松本市に新型コロナウイルス感染症特別警報が出され、三九郎を中止した町会もありました。少子化や担い手不足等で「ここ数年が」と言われた伝統行事伝承は、思わぬ事態で大きな曲がり角を迎えています。



令和3年1月1日現在

総人口	12,614人
男	6,154人
女	6,460人
世帯数	5,365世帯
電話	47-0264
島内公民館 FAX	40-1264

コロナと私たちの生活 4 知恵を絞って経験と伝承を

島内子ども会育成会は、子どもの安心・安全な地域づくりをめざして活動しています。が、今年度は子どもの命を一番に考え、10月まで予定していた行事は中止しました。

11月の三九郎づくり講習会は、コロナが比較的落ち着いてきた時期で屋外の活動となること、子どもたちへ地域の伝統行事を経験させ伝承していく大切さを踏まえて実施することとなりました。当日は恒例の豚汁ふるまいを中止しましたが、講師から縄の結び方や三九郎の組み方を教えてもらい、コロナに負けず創意工夫をしてやぐらを組んでいる子どもたちから、たくさんのパワーを感じました。

三九郎は松送りや疫病退散の意味があり、古くから受け継がれてきた大切な伝統行事となるため、実施の有無や方法については、各町会で判断することになりました。町会ごとコロナ対策の工夫として、人数制限や時間帯を昼間にする、まゆ玉は焼くだけにして自宅で食べるなど、知恵を絞りながらの実施となりました。(島内子ども会育成会 役員)



みんなで 昔の遊び体験

おはなしの会

ハッピークリスマス

昨年12月中、公民館を会場に、昔の遊びなどを体験する「正月の伝統行事と遊び(島内農業文庫・愛ランド島内・公民館・図書館共催)」と、クリスマスにちなんだ絵本・紙芝居の読み聞かせやパネルシアターなどを行う「おはなしの会クリスマススペシャル(公民館図書視聴覚委員会・図書館共催)」が開催され、大勢の親子連れが参加しました。

コロナ禍で工夫をしながらの開催となりましたが、子どもも主催の大人たちも笑顔あふれる時間となりました。

昔遊び体験は、恒例の餅つき体験と昼食会を中止しましたが、凧や竹とんぼなどを短時間で製作できるように準備し、外で遊ぶ時間を増やしました。子どもたちは小学校体育館やグラウンドで元気に走り回り、帰りにぼた餅などのお土産をもらいました。

クリスマスおはなし会は、中止する公民館や図書館があるなか、島内では会場を広い講堂に変更し、時間短縮・人数制限を設けるなどの対応をしました。読み聞かせ後には上條光司公民館長サンタから子どもたちにプレゼントが手渡され、恥ずかしそうに受け取りました。



松島中学校社会科体験授業

火縄銃で歴史を学ぶ

昨年11月20日、松島中学校コミュニティ・スクール(CS)事業の一環として、平瀬古城会の信州松本藩鉄砲隊員を講師に、戦国時代や火縄銃の歴史について学びました。

授業は2年生約110人を対象に行われ、濱宗明さん(北方)と犬飼淳さん(東方)の所有する大小11丁の火縄銃が用意されました。

座学では、鉄砲伝来時に刀鍛冶が難しい部品作りに挑戦した経験が、後々の産業振興に影響したこと、戦国以後の平和な徳川時代には、装飾を施した火縄銃が裕福な武士たちに美術品として扱われたことなどが話されました。

その後、生徒は歴史的価値



のある短筒や大筒などの火縄銃に直接触ったり積極的に構えたりして、当時の気分を味わいました。女子生徒は「戦国時代には人の命を奪っていた兵器が、江戸時代になると武士のコレクションとなっていたことが不思議」男子生徒は「持ってみた鉄砲は思ったより重かった。ズッシリとしたなかにも装飾がピカピカ輝ききれいだっ」と感想を話していました。

今回、住民から公民館へ「所有する火縄銃を小中学校の学習に役立てたい」との相談があり、生徒の歴史への興味を一層深めるように、CSコーディネーターの公民館長が地域と学校をつなげ実現したものです。中学校は次年度も継続を希望しており、今後地域と共にある学校づくりを積極的に進めるとしています。

島内が最優先候補地に

令和10年度末の松本クリンセンター供用満了に伴う新ごみ処理施設建設事業の候補地として、現クリンセンター敷地が最優先候補地として決定され、12月20日に島内公民館で住民説明会が開催されました。

管理者である臥雲市長の挨拶ののち、松塩地区広域施設組合の事務局から候補地選定の経緯が説明されました。

候補地の検討は平成30年9月から着手され、組合を構成する松本市、塩尻市、山形村

朝日村の中で、客観的な観点から選定が進められました。

令和2年2月に第一次として、120箇所

が選定されました。手法は、土地利用等の制約条件を図示した「ネガティブマップ」を作成し、専門コンサルタント業者の意見を踏まえ、それに該当しない箇所を選定するというものでした。



さらに第二次として、立地適正図「ポジティブマップ」や、過去の用地選定で採用された条件等から、コンサルタント2社により17箇所へ絞り、順位付けがなされました。

参加者からは、環境問題、学北道路の拡幅、現在使用している施設の代替など意見要望が出されました。建設による地元の課題については、今後時間をかけて継続的な協議がなされることで、よりよい事業となることが期待されます。

熊倉の渡し

安曇野市と松本市の境にあり、豊科熊倉と前回掲載の下田川手口留番所跡の



ふもとの道を舟でつなぐ街道でした。犀川はここで川幅が狭くなり、増水すると橋は流されてしまったため、渡し舟が利用されていました。

江戸時代には、両岸に番所があり、舟で渡る人や積み荷を調査していました。渡し舟は昭和三十年代くらいまで運行しており、安曇野市の高校へ通った下田の住民は、ここから舟で通学していたと話してくれました。

また、下田の山へ木を伐り

に来る安曇野市の人たちも、この渡し舟を使っていたそうです。当時の舟は豊科熊倉に保存され、今でも見ることができます。

